MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２２．６．７　発行元
第 363 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

新幹線とミステリ

第３６１号で『自動車とミステリ』を取り上げたので、今度は『新幹線とミステリ』にしてみた。東海道新幹線の開通は国鉄時代の１９６４年。それから５０年以上の時間が過ぎた。ミステリへの登場も数多い。

新幹線を振り返ると…

私は東北地方に住んでいる。子ども頃、一年に何度か東北本線の駅に行くことがあった。当時はまだ蒸気機関車も数は少なくなったが活躍していた時代で、駅の構内を走る列車を眺めているのが好きだった。

東海道新幹線は東京オリンピックに合わせての開業で、当時の子どもたちにとっては「夢の超特急」だったことは間違いない。実感はまったくなかったが…。

大学生になり、仙台へ行くには「準急」か「急行」を使うことが多かった。東北新幹線の開通は１９８２年で、私はもう仕事についていた。現在の仙台駅の駅舎とペデストリアン・デッキを見ると、時間の流れの速さをしみじみ感じる。

新幹線とミステリの関係

「ノベルスの時代」。東海道・山陽新幹線はミステリの中に数多く登場している。「トラベルミステリ」がブームになった時、新幹線はその中心であり、そこから更に地方へと物語は展開していくのであった。「時刻表トリック」などはその代表的な例である。

西村京太郎の作品では「新幹線」を冠したものはそれほど多くない。『東北新幹線殺人事件』『ひかり 62 号の殺意』『上越新幹線殺人事件』『韓国新幹線を追え』『山形新幹線つばさ殺人事件』『東北新幹線はやて殺人事件』『九州新幹線つばめ誘拐事件』…などとなっている。

これからのことを考えると

３月の地震で東北新幹線が脱線したのには驚いた。そんな被害が出るなんて。なんとか復旧してホッとした。災害はいつやってくるかわからないし、予想外の被害が生まれることもある。ミステリという小説の中だけでなく、我々が考えるべきことはたくさんあると思う。

森村誠一「新・新幹線殺人事件」

森村誠一の『新幹線殺人事件』は１９７０年のカッパノベルス。ここに取り上げた『新・新幹線殺人事件』はその１５年後の１９８５年に新潮社から出版された。「作者あとがき」によると、「高速度交通機関の発達」で、それまでの「家庭・家族」のあり方が改変されたと書いてある。一家揃って転勤ではなく、単身赴任が増え、週末に長距離を移動して家族の元へというパターンが多くなった。「家庭崩壊」が本書のテーマであると言っている。博多発新幹線ひかり 116 号の車内で起きる刺殺事件。名古屋駅で乗客からの通報があり、東京駅で捜査が始まる。家族、そして会社、交友関係の中から浮かび上がってくるものは…。森村ミステリの中では比較的「本格」の味が濃い作品ということになる。

木谷恭介『新幹線《のぞみ 47 号》消失!』

１９９９年トクマノベルス。東京発新大阪行きの「のぞみ 47 号」が、静岡と掛川の間を走行中に線路上から消えてしまうという一大事件が発生。十六両編成。千三百人乗車。総合指令室のモニターからも消えてしまう。列車には国会議員も乗っているという。やがて「グループ富士」を名乗る犯人からマスコミへ要求が届く。内容はあまり具体的ではなく、国の政治的・経済的な危機を脱するために、学者でコメンテイターをしている森総一郎を長とする日本改造実行委員会を組織せよというもの。国債などの不良債権などを改革する試案を三日間で作るようにと。この難題に立ち向かうのは警視庁広域捜査室の宮之原警部。新幹線を消してしまうトリックは…。

西村京太郎　『東北新幹線殺人事件』

１９８３年カッパノベルス。でも私は本になる前、１９８２年７月号からの雑誌『ＥＱ』の連載で読んだ。『ＥＱ』特集の目玉商品である。

深夜、京王線八幡山駅近くの路上でひとりのＯＬの絞殺死体が見つかった。次の日に会社の同僚に聞いてみると、夏休みに仙台に帰郷するのを楽しみにしていたという。開業したばかりの東北新幹線のグリーン車の指定券を見せてもらったことがあると証言した。その日、十津川警部と亀井刑事は大宮駅に行き、出発する「やまびこ号」を観察することにした。どの列車かわからないので、午後まで待っても何も起こらず、二人は新幹線に乗ることにした。蔵王トンネル内で、グリーン車のドアコックが開き、発煙筒がたかれ、誰かが逃げた後に青酸中毒死の死体が残されていた。

西村のトラベルミステリの中でも上位の出来になる。すばやい展開で存分に楽しめる作品。